

埼玉原水協代表团
医療生協さいたま
埼玉民医連

2017年
原水禁世界大会
代表团
結団式

2017年7月20日

2017 World Conference against A&H Bombs
原水爆禁止2017年世界大会

核兵器の
禁止を

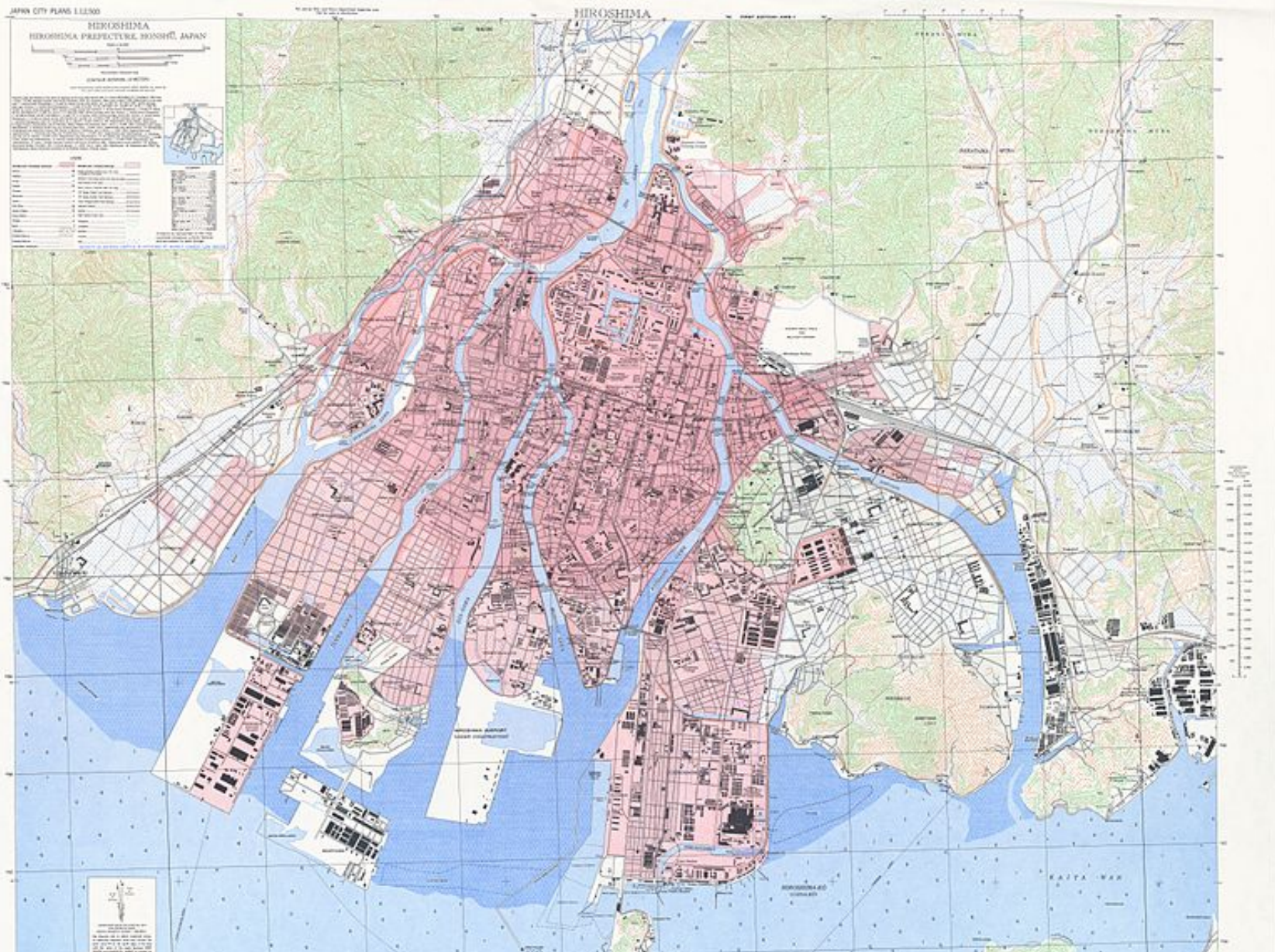


1945年8月6日と9日原爆投下 ～核兵器廃絶運動の始まり

- 8月6日（広島市内） 約14万人
- 8月9日（長崎市内） 約 7万人
- 生き延びた被爆者は、様々な病が今も続く
- ふたたび、繰り返してはいけませんが合言葉
- 約10年間は「秘密事項」、学会報告も禁止
- 転機①1954年3月1日第5福竜丸事件
 - ②1954年初の原子力研究予算化
 - ③1955年第1回原水爆禁止世界大会

広島市への原爆投下

1945年(昭和20)年8月6日 午前8時15分



広島市への原爆投下

1945年(昭和20)年8月6日 午前8時15分

- 実戦で使われた世界最初の核兵器
原子爆弾リトルボーイはウラン235を用いたガンバレル型という爆弾で、TNT換算で約15ktといわれる。
- 当時の広島市 中国地方の経済的な中心地。人口は約35万人と推定(居住一般市民約29万人+軍関係約4万人+市外から入った者約2万人)。軍都の側面ももち、爆心地の北側は陸軍施設で広く占められ、宇品港にあった陸軍船舶司令部は兵站上の重要拠点だった。
- 爆心地は広島市細工町29-2の島病院(現島外科内科)。爆心地500m圏内では閃光と衝撃波がほとんど同時に襲った。巨大な爆風圧が建築物の大半を一瞬にして破壊、木造建築は全数が全壊。
- 爆心地1km~3km地点では、多くの建物が半壊した。
- 野外で運良く塀や建物などの遮蔽物の陰にいた者以外の大多数の者は、熱線を受け重度の火傷を負った。

広島市への原爆投下

1945年(昭和20)年8月6日 午前8時15分

- この一発の兵器により人口35万人(推定)のうち9万～16万6千人が被爆から2～4カ月以内に死亡したとされる。
- 爆心地から500m以内の被爆者では、即死および即日死の死亡率が約90%超、500m～1kmでは即死および即日死の死亡率が約60～70%。さらに生き残った者も7日目までに約半数が死亡、次の14日目までさらに25%が死亡。
- 11月までの集計では、爆心地から500m以内での被爆者は98～99%が死亡、500m～1km以内では約90%が死亡。1945(昭和20)年の8月～12月の間の被爆死亡者は9万人から16万人と推定。

長崎市への原爆投下

1945年(昭和20)年8月9日 午前11時02分



長崎市への原爆投下

1945年(昭和20)年8月9日 午前11時02分

- 長崎は、江戸時代にポルトガルや中国との海外貿易の拠点として発展し、1859年の開国まで西洋との唯一の窓口だった。原爆が投下された浦上地区は隠れキリシタンの里だった地域。明治維新後に鉄道敷設で開発が進み、造船業や船舶航路の拠点として発展。石炭鉱山が開発され、多くの労働力も集まった。主力産業であった造船や鉱業は三菱財閥に支えられた企業城下町だった。
- 長崎にはプルトニウム239を使用する原子爆弾「ファットマン」が投下された。TNT火薬換算で22kt相当で、広島に投下された原爆「リトルボーイ」の1.5倍の威力だった。
- 第1目標は小倉市だったが、第2目標だった長崎市に投下された。
- 原爆は浦上地区の中央で爆発し、この地区を壊滅させた。市中心部は爆心地から3km離れ、金比羅山など多くの山による遮蔽があり、遮蔽の利がなかった湾岸地域を除いて被害は軽微だった。広島市の場合と異なり県や市の行政機能は全滅を免れた。

長崎市への原爆投下

1945年(昭和20)年8月9日 午前11時02分

- 原爆が投下された当時、長崎の人口は約24万人だったが、原爆によって1945(昭和20年)12月末までに73,884人が亡くなった。74,909人が負傷した。市内の戸数の約36%にあたる18,409戸が被害を受けた。
- 浦上地区の被爆の惨状は広島市と同じく悲惨な物であった。浦上教会(浦上天主堂)では原爆投下時に告解(ゆるしの秘跡)を行っていたが、司祭の西田三郎・玉屋房吉を初め、数十名の信者は爆発に伴う熱線あるいは崩れてきた瓦礫の下敷きになり全員が即死、長崎医科大学でも大勢の入院・通院患者や職員が犠牲となった。
- 長崎市内には捕虜を収容する施設もあり、連合軍兵士(主に英軍・蘭軍兵士)の死傷者も大勢出たと言われている。
- 特異例として広島で被爆後親戚を頼って長崎へ疎開していた人物が再び長崎で被爆・または出張などで広島を訪れていた人物が被爆し、実家のある長崎で再び被爆したという事例(二重被爆)も確認されている。

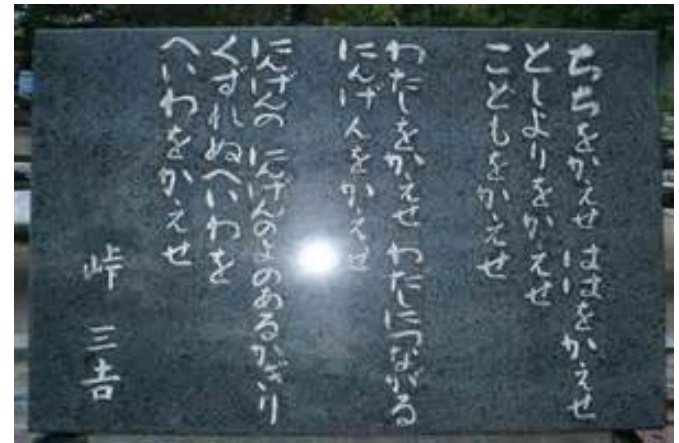
キノコ雲の下で起こったことは…

人間をかえせ

峠三吉(とうげみつよし:1917-1953)

ちちをかえせ
ははをかえせ
としよりをかえせ
こどもをかえせ
わたしをかえせ
わたしにつながる
にんげんをかえせ

にんげんの
にんげんのよのあるかぎり
くずれぬへいわを
へいわをかえせ



キノコ雲の下で起こったことは…

「八月六日」 峠三吉(とうげみつよし:1917-1953)

あの閃光がわすれえようか
瞬時に街頭の三万は消え
押しつぶされた暗闇の底で
五万の悲鳴は絶え

渦巻くきいろい煙がうすれると
ビルディングは裂け、橋は崩れ
満員電車はそのまま焦げ
涯しない瓦礫と燃えさしの堆積であった広島
やがてボロ切れのような皮膚を垂れた
両手を胸に
くずれた脳漿(のうしよう)を踏み
焼け焦げた布を腰にまとして

泣きながら群れ歩いた裸体の行列

石地蔵のように散乱した練兵場の屍体
つながれて筏へ這いより折り重なった河岸の群も
灼けつく日ざしの下でしだいに屍体とかわり
夕空をつく火光の中に
下敷きのまま生きた母や弟の町のあたりも
焼けうつり
兵器廠(へいきしょう)の床の糞尿のうえに
のがれ横たわった女学生らの
太鼓腹の、片眼つぶれの、半身あかむけの、丸坊主
の
誰がたれとも分からぬ一群の上に朝日がさせば
すでに動くものもなく
異臭のよどんだなかで金ダライにとぶ蠅の羽音だけ

三十万の全市をしめた
あの静寂が忘れえようか
あのしずけさの中で
帰らなかった妻や子のしろい眼窩(がんか)が
俺たちの心魂をたち割って
込めたねがいを
忘れえようか！



殺してくれ！

谷口稜暉（すみてる）さん。16歳のとき、郵便配達中に被爆し、背中全体が焼けた。大村の旧海軍病院で1年9カ月、腹ばいのまま身動きできなかった。

（米軍撮影 提供：平和博物館を創る会）

Kill Me!

Mr. Taniguchi Sumiteru, a postman of 16 years old, was making his rounds by bicycle when the A-bomb exploded. His entire back was heavily burned, and he was hospitalized in the Navy Hospital of Omura district, Nagasaki where he laid on his stomach, unable to move for almost two years.

(Photo by U.S. Army / Sponsored by The Japan Peace Museum)

背中一面を焼き尽くされた私は、あの時、滅びそこねてしまった。死ぬまで消えない痛みと苦しみを背負い、家族や友人、同じ境遇の仲間、そして平和を願う人々に支えられながら、生かされてきたと思います。核兵器廃絶という被爆者の悲願は、いまだ達成できていません。子や孫の世代に託さざるをえないことは、悔しいし、申し訳ない。死んでいくものの土産として、せめて廃絶の道筋だけはつけたいといけなと思っています。

谷口稜暉聞き書き
Taniguchi Shimeki

原爆を



背負って

久知邦

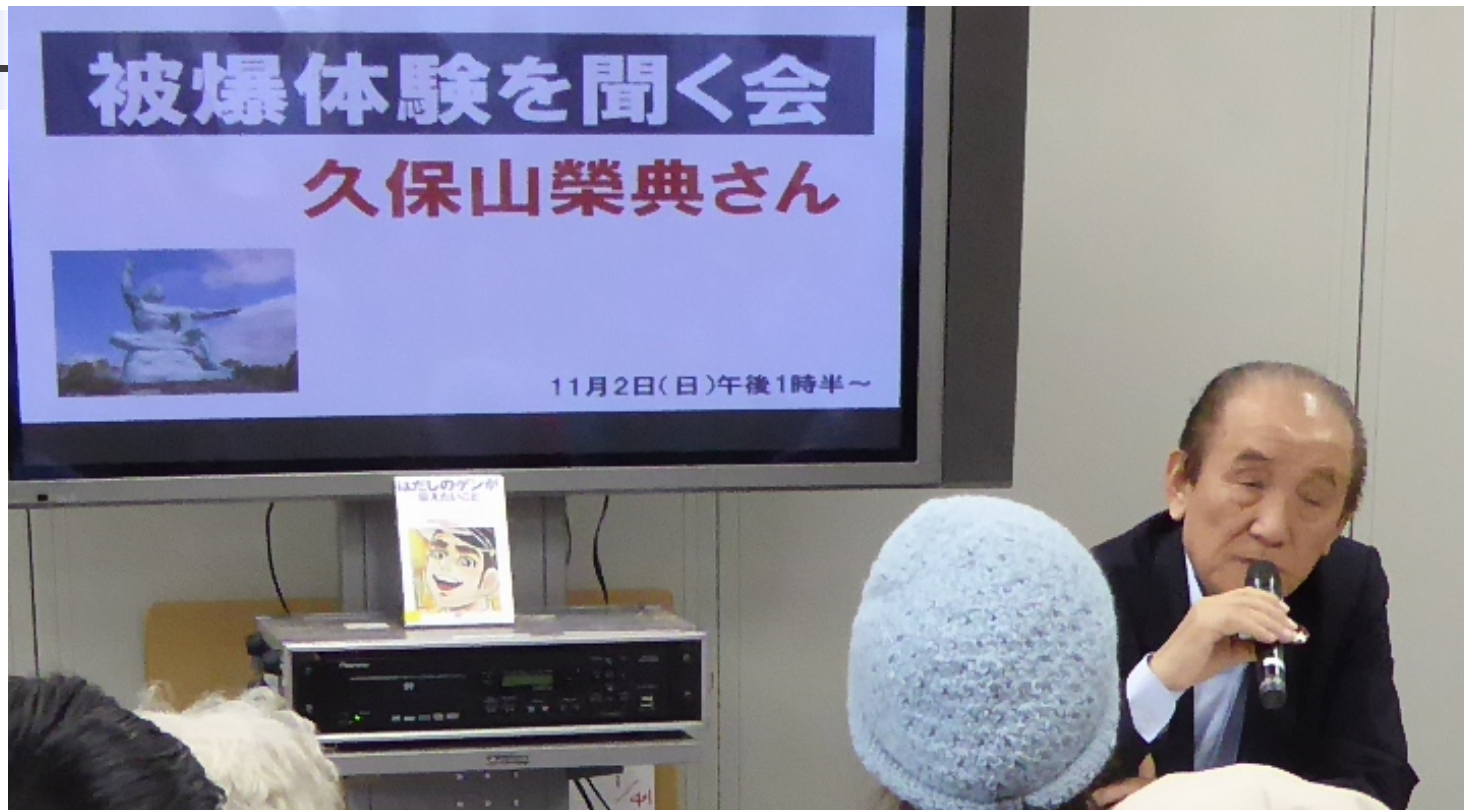
私は忘却を恐れます。

忘却が原爆肯定に流れていくことを恐れます。

一瞬で数万の命を奪い、多くの人の人生を狂わせた一発の爆弾。これは長崎で郵便配達中に背中一面を焼き尽くされた少年の闘いの記録。

西日本新聞社

“私は、弁当箱に「父」を詰め込みました”



**埼玉県原爆被害者協議会・しらさぎ会
くぼやま・よしのり副会長**

久保山さんが体験を語るようになった理由

被爆者であることを明かす社会的デメリットよりも、体験を後世に役立てられずに命が尽きることを悔しいと思い、被爆体験を語ることは被爆者に課せられた責務だと痛感するようになりました。それは今から10年ほど前のことです。

胃がん、脳梗塞、そして最近も腎臓がんに冒され、原爆を恨みつつも被爆者運動や講演活動を続けているのは、悲惨な戦争を次の世代に経験させてはいけないという信念からだと思います。

酷い体験

(当時)父は34歳、工場で海軍の弁当箱を造っていました。父の遺体を見つけたのは8月13日。火傷で体がパンパンに膨れ上がり、生前の面影はありませんでした。焼け焦げた鉄板の上に遺体を乗せ、木片を郊外から集めて3日間かけて焼きましたが、2日目以降は長男の私(8歳)ひとりで父を茶毘にふしました。鉄の棒で頭蓋骨を砕き、その弁当箱二つに頭とその他の部分を分けてぎっしりと詰め込み、両脇に抱えて山の中腹にあるお墓に行きました。涙はありませんでした。8月15日夕方、倒れた石碑の陰にお骨を収めました。この時の満足感は今考えると異様です。その帰り道で、日本が戦争に負けたことを知りました。その夜はじめて母にすがりつき二人で泣きました。

語り部10年の思い

高校生等から寄せられた山積みの感想文は私の宝物です。「いい戦争なんかない、悪い平和もない」と語り継いでいくことが、あの時生き残った者の使命だと思います。

被爆者の願いを「継承する」のは誰か!?

17万人・平均年齢80歳超

..... 2017 World Conference against A&H Bombs 

- 被爆者健康手帳所有者
- 174,080人
(2016年3月末現在)。
埼玉県内1,859人
- 高齢化が進む被爆者の平均年齢は80歳を超えている。手帳所持者がもっとも多かった時から20万人近くの被爆者が亡くなっている。
- 健康や生活に関する相談活動、体験聞き取り活動を通じて、被爆者や被爆者運動の支えになっていくことが大切。
- 私たちが「継承する」世代

全国の被爆者健康手帳所持者

都道府県	人数	都道府県	人数
北海道	334	滋賀	348
青森	52	京都	1,020
岩手	31	大阪	5,653
宮城	144	兵庫	3,543
秋田	25	奈良	612
山形	26	和歌山	238
福島	68	鳥取	305
茨城	375	島根	1,133
栃木	197	岡山	1,635
群馬	133	広島	22,818
埼玉	1,859	山口	3,036
千葉	2,478	徳島	174
東京	5,758	香川	343
神奈川	4,231	愛媛	820
新潟	109	高知	164
富山	60	福岡	6,667
石川	91	佐賀	1,090
福井	62	長崎	12,827
山梨	78	熊本	1,158
長野	126	大分	648
岐阜	401	宮崎	473
静岡	581	鹿児島	761
愛知	2,158	沖縄	163
三重	383	広島市	56,174
		長崎市	32,547

合計 174,080

2016年3月末現在
厚労省のウェブサイトより作成

原水爆禁止運動(原水禁)

原水禁大会…

- 1955年第1回原水爆禁止世界大会 広島で署名総数3158万3121筆
- 大会宣言 全面禁止、実相を知らせる
- 日本原水協、日本被爆者団体協議会が誕生

<成果>

- ・ 1957年、国が原爆医療法制定
- ・ ベトナム戦争でフランスの原爆使用を阻止
- ・ 国連で議論 NPT核兵器不拡散条約(1970年)
再検討会議が1995年から5年毎

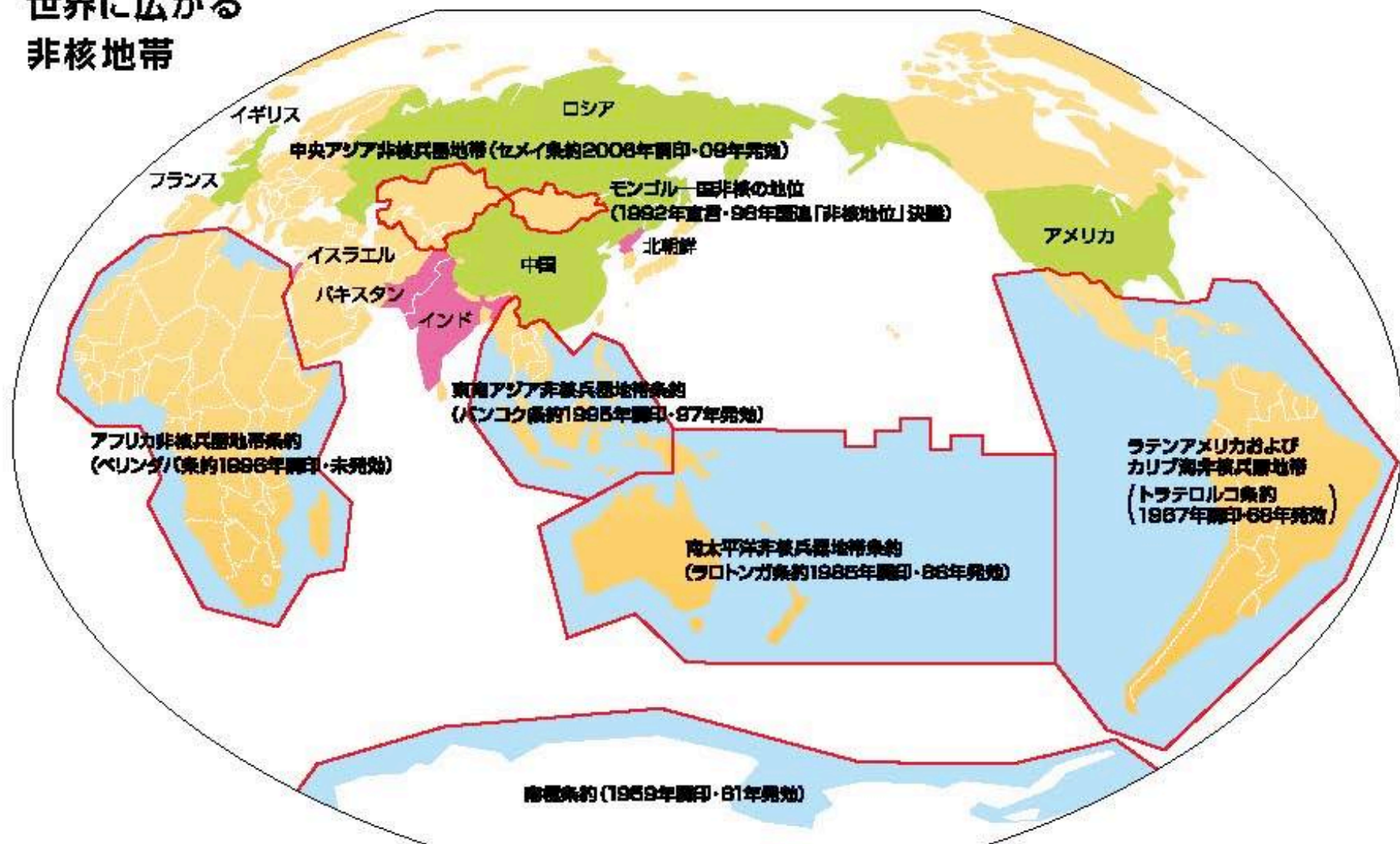


日本の被爆者・市民の60年に及ぶ草の根の運動の継続が確実に世界を動かしている…

- 原水爆禁止日本協議会（日本原水協）は、1954年3月1日、アメリカが中部太平洋ビキニ環礁で行なった水爆実験の被害に抗議する国民的な世論と運動の高まりの中、翌1955年8月の第1回原水爆禁止世界大会の開催を経て、9月19日に結成された。
- 当時全国で集められた3200万筆を超える核兵器禁止署名は、唯一、核の攻撃を体験した国としての日本国民の強い反核平和の願いを示すものだった。
- それ以来、日本原水協は、核戦争阻止、核兵器全面禁止・廃絶、被爆者援護・連帯の三つを基本目標とし、毎年8月の原水爆禁止世界大会の開催、日常的な原水爆禁止の国民的署名運動、被爆者と協力した被爆の実相の普及など、草の根を基礎に多彩な行動を発展させている。

非核兵器地帯条約の世界地図

世界に広がる 非核地帯



NPTとは…

- ◆ NPTとは、「核兵器の不拡散に関する条約」であるTreaty on the Non-Proliferation of Nuclear Weaponsの略称。「核拡散防止条約」または「核不拡散条約」とも略される。1970年に発効された。
- ◆ NPTは、核兵器国として
アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中華人民共和国(P5)
の5か国を定め、5か国以外への核兵器の拡散を防止する条約。
- ◆ NPTの締約国・地域は191。
- ◆ NPT非加盟の核保有国
インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮(2003年に脱退表明)
- ◆ NPT再検討会議は、1995年から5年に1度、NPTの運用状況を検討するために開かれている。NPTの実効性を高めるための最終文書を、全会一致で採択することを目的とする。
2015年は4月27日～5月22日までニューヨークで開催された。

これまでのNPT再検討会議の流れ

核廃絶の段階的な実現



核兵器禁止条約で核兵器の違法化を！

- ◆ 核不拡散条約(NPT)は核独占を認めた不平等条約である。
元々は、核軍拡競争に明け暮れていた米ソなど核保有国の共通の利益を守り、核保有国を広げないことがねらいだった。
- ◆ 条約の3本柱は①核不拡散②核軍縮③原子力の平和的利用。
②核軍縮について、各締約国による誠実に核軍縮交渉を行う義務を規定(第6条)しているが、核保有国に義務を守らせる期限や法的枠組みはない。
- ◆ しかし、世界の多くの国々は、「核保有を未来永劫認めるためにNPTに入ったのではない」「核兵器国は約束を守れ」とねばり強く求め続けた。それにより2000年再検討会議では、核兵器国が「**自国の核兵器の完全廃絶の明確な約束**」をするに至った。

最大の障害は「核抑止力」論

持たない国(核の非保有国)

持つ国(核の保有国)

核兵器そのものを不法と見なす法的枠組み「核兵器禁止条約」の制定を求める。

核兵器の存在こそ大規模紛争を防ぐという「抑止論」を主張している。

アメリカ政府の方針

- 米国の核兵器の根本的役割は、米国、同盟国、パートナー国の死活の利益を防衛するために極限状況においてのみ核兵器の使用を検討する。

ロシア政府の方針

- ロシアは、ロシアないし同盟国への核兵器や大量破壊兵器の使用に対して、また、通常兵器によるロシア連邦への侵略で国家の存立そのものが脅威にさらされた場合、核兵器を使う権利を留保する。

核兵器禁止条約に背をむける 日本政府

- 岸田外務大臣は、2014年1月の長崎大学での講演で「自衛のため極限の状態での核兵器の使用」を容認すると発言。



“核兵器禁止条約の交渉開始に尽力を、”と日本原水協が日本政府に申し入れ (2014.10.9)

- 北朝鮮の核開発、核兵器をもつ中国の軍備増強もある。日本は自ら核兵器を保有しないわけだから、アメリカの「**核の傘**」に頼る以外にない。

2015年NPT再検討会議の結末… 最終文書採択できず

YAHOO! ニュース IDでもっと便利に新規取得
JAPAN ログイン

キーワードを入力

ニュース



トップ

速報

写真

映像

雑誌

個人

意識調査

ランキング

主要 | 国内 | **国際** | 経済 | エンタメ | スポーツ | IT・科学 | ライフ | 地域

コメントを見る

核の恐怖わからぬか NPT失望

2015年5月23日(土) 15時31分掲載

<NPT決裂>「核の恐怖わからぬのか」被爆者、失望隠せず



「NPT会議」決裂 最終文書採択できず(日本テレビ系 (NNN))

米ニューヨークの国連本部で約1カ月にわたって開かれていた核拡散防止条約(NPT)再検討会議は、決裂という最悪の結果となった。広島、長崎への原爆投下から70年の今年、被爆者たちは「核兵器なき世界」に向けて前進することを願っていただけに「核の恐ろしさが分からないのか」と失望を隠さない。一方で「諦めるわけにはいかない」と核廃絶への決意を新たにする声も聞かれた。【高橋咲子、加藤小夜、石川裕士、樋口岳大、小畑英介】(毎日新聞)

[\[記事全文\]](#)

議論1カ月、各国に徒労感

<NPT決裂>参加国に徒労感 議論1カ月「結果ゼロ」

西側外交筋は「1カ月も議論したのに全会一致にならないならば、公式記録はただの1段落も残らない。結果はゼロだ」。毎日新聞(2015年5月23日)

米国が反対

<NPT>米「同意できず」 会議失敗に

採択は全会一致がルール 直接の原因

『中東非核地帯化』をめざす国際会議をめぐる米、英、力が不同意。

最終合意案が採択されずに閉幕した。

核兵器禁止条約を求める動き

NPTは不平等条約

核兵器保有OK！

核兵器国
(米・英・仏・
露・中)

核兵器保有NO！

圧倒的多数の
非核保有国

6条「核軍縮のための
誠実な交渉を約束」

NPT6条の義務を果たさない核兵器国への非核保有国の怒り

核兵器禁止のための新たな交渉の場をつくるべき！

核兵器禁止条約に対する日本政府の姿勢

2015年 第70回国連総会にて
「核兵器に関する開かれた作業部会」(OEWG)設置
に対する意見

日本—**反対**

東アジアの緊張、核兵器国が不参加では
意味がない、「ステップ・バイ・ステップ」で



激しく対立！

メキシコを中心とする多数国—**賛成**

核兵器の非人道性の認識を踏まえ、核兵器
禁止条約の議論を前進させよう

作業部会設置が138ヶ国の賛成で決定！

核兵器禁止条約の交渉開始へ！

2015年秋 第70回国連総会

「核兵器に関する開かれた作業部会」の設置を決議

2016年8月 国連作業部会報告書

国連総会に対して、2017年に核兵器禁止条約交渉の会議を招集することを勧告

2016年秋 第71回国連総会

核兵器を禁止し、完全廃絶につながるような法的拘束力のある措置について交渉するため、2017年に国連の会議を招集するよう決定

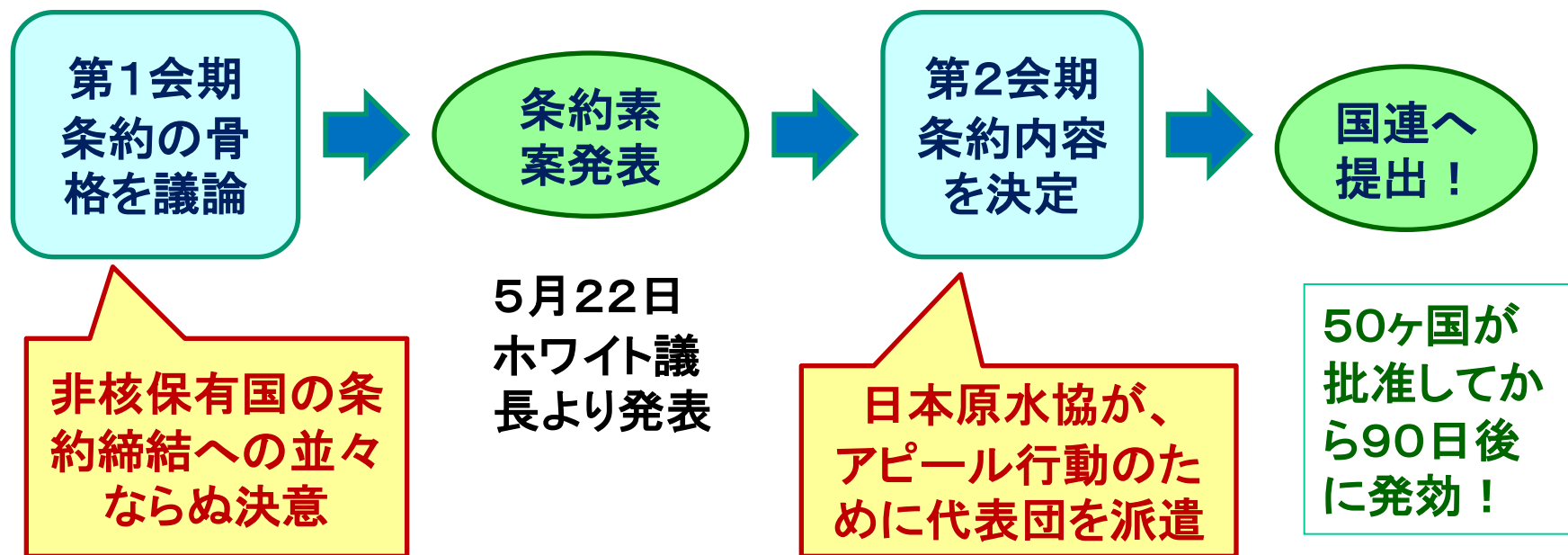
賛成113ヶ国 反対35ヶ国（核兵器国と同盟国、日本も）、棄権13ヶ国

核兵器禁止条約国連会議の開催

交渉会議の日程

第1会期 2017年3月27日～31日

第2会期 2017年6月15日～7月7日



核兵器禁止条約国連会議における 核兵器廃絶運動への評価

日本被団協代表 藤森俊希事務局次長

ヒバクシャ国際署名が172万筆以上集まっていることを報告し、大きな拍手

ホワイト議長(日本原水協、被爆者との懇談で)

「6月からの会議にも多くの署名を持って参加してほしい」と要請

アイルランド代表

この会議は歴史的と見なされるべきもののひとつ。市民社会とヒバクシャの努力の結果だと評価。

オーストリア代表

核兵器を禁止するために活動してきた市民社会に感謝したい。一緒に活動することは名誉であり、喜び。

核兵器禁止条約案の概要①

- 前文



「核兵器がいかなる場合にも決して再び使用されないことを確保するためのあらゆる努力を払う必要がある」

「核兵器の壊滅的な帰結が、国境を越え、人間の生存、環境、社会経済的な発展、世界経済、

食料の安全および将来世代の健康に重要な影響を与えること、並びに母性の健康に対し及び女子に対し電離放射線が不均衡な影響を及ぼすことを認識」

「核兵器の使用の被害者(ヒバクシャ)の苦しみ並びに核兵器の実験により影響を受けた者の苦しみに留意」

「核兵器の禁止は包括的な核軍縮に向けた重要な貢献となる」

「国際連合、赤十字国際委員会、多数の非政府機関及びヒバクシャが行なっている努力を認識」

核兵器禁止条約案の概要②

・第1条(禁止)

1. (a) 開発、生産、製造、取得、保有、貯蔵
(b) 管理の移譲
(c) 管理の移譲の受け入れ
(d) 使用、**使用の威嚇(核抑止力の否定)**
(e) 禁止事項の支援、奨励、勧誘
(f) 禁止事項の支援の要請、受け入れ
(g) 領内での核爆発装置の配備、導入、展開の容認



・第4条(核兵器の全廃に向けて)

1. 未申告の核物質・核活動がないことについて確証を与えるため、国際原子力機関と保障措置協定を締結
2. 核兵器を所有、保有、管理する締約国は、核兵器廃棄の計画を提出

核兵器禁止条約案の概要③

- **第6条（被害者支援と環境改善）**

「核兵器の使用や実験に伴って悪影響を受けた管轄下の個人に関し、国際人道・人権法に従って、医療ケアやリハビリ、心理的な支援を含め、年齢や性別に適した**支援**を十分に提供」

「汚染地域の環境改善に向け必要かつ適当な措置」

- **第8条（締約国会議）**

「最初の締約国会議は、本条約が発効してから1年以内に国連事務総長によって開かれる」

「その後の締約国会議は、……国連事務総長によって**2年ごと**に開かれる」

「本条約の非締約国ならびに国連システムの関連機関、……関連の**非政府組織**は締約国会議や再検討会議にオブザーバーとして招待される」